JACLaP NEWS

JAPANESE ASSOCIATION OF CLINICAL LABORATORY PHYSICIANS

[Homepage]http://www.jaclap.org]

No.147 / 2024.3

2024 年行事予定

3 月 23 日（土）	第 7 回理事会
4～5 月（未定）	第 1 回理事会（開催形式未定）
5 月 20 日（月）～6 月 3 日（月）	第 93 回教育セミナー（オンデマンド配信）
6 月 29 日（土）～6 月 30 日（日）	日本臨床検査専門医会第 3 回年次大会
29 日（土）	第 2 回理事会、2024 年度定時社員総会、生涯教育講演会
7 月 26 日（金）	第 41 回臨床検査振興セミナー（御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター）
9 月 頃	第 3 回理事会
11 月 11 日（木）	臨床検査の日 全国検査と健康展（11 月～12 月）
11 月 28 日（木）～12 月 1 日（日）	第 71 回日本臨床検査医学会学術集会（大阪）、第 4 回理事会、2024 年度臨時社員総会・講演会・共催シンポジウム

＊ 2024 年度は役員選挙の年となります。
日程等については追ってお知らせします。

【目次】

p.1	巻頭言
p.2	「実なき学問は先ず次にし、専ら勤むべきは人間普通日用に近き実学なり」
p.3	事務局からのお知らせ、日本臨床検査専門医会臨時社員総会報告
p.4	2023 年度臨時総会講演会報告、第 70 回一般社団法人日本臨床検査医学会学術集会関連行事報告、JACLaSEXPO2023、2023 年「全国検査と健康展」報告、2024 年度　第 3 回年次大会、2024 年行事予定、2024 年度教育セミナー開催予告
p.5	2023 年度会費振込のお願い、住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について、会員の声
p.6	会員の声、「能登半島地震」被害へのお見舞いとお願い

りんしょう犬さんスタンプ購入サイト

りんしょう犬さん LINE スタンプの検索方法

LINE→ウォレット→スタンプショップ

↓

「りんしょう犬さん」を検索
検索結果→「クリエイターズ」を選択

https://store.line.me/stickershop/product/8679516

※ 収益が発生した場合は全て「臨床検査」の重要性を社会に伝える活動に使用させていただきます

巻　頭　言

一般社団法人日本臨床検査専門医会第 3 回年次大会開催にあたって

紀南病院中央臨床検査部
大会長　尾﨑　敬

このたび、日本臨床検査専門医会第 3 回年次大会の大会長を担当させて頂きます。宜しくお願い致します。開催日時と会場は、本年 6 月 29 日（土）・30 日（日）、和歌山県田辺市紀南看護専門学校（紀南病院敷地内）です。近畿地方での開催は、平成 27 年（2015 年）に松尾収二先生（天理医療大学教授）が奈良市で開催されて以来 9 年ぶりとなります。今開催にあたり、日本臨床検査医学会近畿支部長（山﨑正晴先生　奈良県立医科大学）はじめ、幹事会の先生方、日本臨床検査専門医会理事長（〆谷直人先生　国際医療福祉大学熱海病院）、理事会の先生方、事務局のみなさま、日本臨床検査医学会理事長（大西宏明先生　杏林大学）、副理事長（田部陽子先生　順天堂大学）の先生方にお世話になりました。心より感謝申し上げます。そして、ここまで支えて下さった紀南病院院長（阪越信雄先生）、事務局長（仲晃司さま）、総務課長（山林正英さま）、技師長（大前嘉良さま）、宮本一雄先生はじめ検査部スタッフのみなさま、臨床各科の先生方、看護専門学校の方々には、多方面でいろんなご迷惑をお掛けしたかと思いますが、みなさま、広い気持ちで対応して下さり本当に有難うございました。

今回のテーマは「臨床検査・研究・そしてワークライフバランス」で、日本臨床検査専門医会の会員の先生方にとって絶えず向き合う課題ではありますが、この 3 つをどのように対応しているかは、個人個人の価値観によるところが大きいと思われます。その価値観を今回の大会に参加して頂くことで、もう一度見直す機会になって頂ければと思います。

開催地の紀南地方（熊野地方）は、時代の流れや流行に、流されることなく普通の日々を重ね続けてきた地方です。それゆえに、歴史・文化・風土・自然・宗教観が昔のまま残されております。今回の大会ポスターに起用した南方熊楠は熊野地方を代表する偉人ですが、国内外で多くの経験を積んだ熊楠が、この地方をこよなく愛し、ここで彼の研究活動を続けたのも以上のことと深く関係していると思われます。

熊楠は一地方の研究者で、他人の評価を気にしない人でした。サイエンスやアカデミーの世界ではあまり知られていないかもしれませんが、英文科学雑誌「Nature」に 50 以上の筆頭論文が掲載されるという、人類未踏の偉業を達成しました。熊楠の豊かな人生観を知って頂きたく、懇親会では南方熊楠記念館館長による講演会（タイトル）『博物学者 南方熊楠のワークライフバランス　～熊野での研究と人生～』も企画しています。研究と人生を謳歌し自然を愛した熊楠は、各方面で頑張っている多くの人々に「何か大切なもの」を与えることができる人物と思います。今回、この地に多くの関係者の方々に足を運んでいただき、熊楠が何故この地を選んだのかを少しでも感じて頂ければ幸いです。そして大会終了後には、多忙な日常生活をもう一度見直す機会になれば幸いです。大会終了後、高野山方面のエキスカーション（日帰りバスツアー）も検討中です（最低 20 名以上の参加が条件です、大会ホームページ「高野山方面へのエキスカーションの希望調査」アンケートの回答入力宜しくお願いします）。

今大会では生涯教育講演会 1（令和 6 年の診療報酬改定と改正医療法のポイント）、生涯教育講演会 2（和歌山県の新型コロナウイルス感染症対策 和歌山方式）、特別講演 I（甲状腺疾患について知ろう－非腫瘍－）、特別講演 II（甲状腺腫瘍について知ろう－甲状腺発生・再生・そして腫瘍－）、教育講演（臨床検査と研究－間質性肺炎・バイオマーカーについて知ろう－）、シンポジウム（遺伝子診断と治療を理解しよう）、ランチョンセミナーを企画予定しております（詳しくは大会ホームページを参照）。今後、臨床検査専門医更新の単位認定を申請予定です。

紀南地方での開催のため、交通の便も悪く、誠に申し訳ございません。そして会場参加して下さる先生方には心より感謝申し上げます。会場参加できなかった方々には、大会終了後にオンデマンド配信を予定しております。ホームページから事前の参加登録をお勧めしますが、当日会場での参加受付も行っております。皆様多数のご参加を心よりお待ちしております。

紀南地方は、5 月連休から非常に混雑し、飛行機予約・宿泊予約がとれないこともあります。大会ホームページから早めの宿泊予約をお勧めします。

この巻頭言を書いているころ、紀南地方は梅の花が既に満開です。紀南地方に春を告げる新宮神倉の千年以上昔から続く「御燈祭」はもうすぐです。

最後に、和歌山県にご縁のある佐守友博先生（元日本臨床検査専門医会会長・明和病院）には、ホームページ作製・趣意書の書き方と多くの助言を頂きましたこと、心より感謝申し上げます。

令和 6 年 1 月 30 日

「実なき学問は先ず次にし、専ら勤むべきは人間普通日用に近き実学なり」

慶応義塾大学名誉教授
渡辺　清明

はじめに

私は元々血液内科医であり臨床検査の仕事はあまりしていなかった。しかしその後、45歳になった1985年に中央臨床検査部（以下中検）の副部長になり、1991年に臨床検査専門医の資格を取得し、臨床検査の仕事をするようになった。そこで感じたのは臨床検査がその価値をきちんと国民に評価されていない事であった。従って、臨床検査医の役割はその価値を少しでも上げる事だと思った。
その後たまたま、1995年6月に医学部中検教授および検査部長に就任したので、微力であるが、個人的に何をしたかを以下述べる。一人の臨床検査医の生き様として参考にして頂ければ幸いである。

検査部の運営に関して

当時検査部運営の全ては検査部長の責任であったので、約120名の臨床検査集団を日々管理し、年間延べ一千万件を超す検査を施行し、質の高い検査結果を医師や患者さんに還元する作業は膨大であった。

臨床検査の病院収入は医療費の7－8%を占め、当時の慶応病院の総収入は年間300億円程度であったので、20～25億程度あった。まさに大学教授と言っても、教育、研究よりも病院業務や職場管理が中心の仕事になった。

業務では、組織内の方々と共に、組織再編成（ルチン検査と特殊検査を分離）、遺伝子検査室設置、病院内の検査オーダーシステムの簡略化、医師のための臨床検査相談室の設置、外来採血室の設置、診療前検査の導入、病棟の患者さんの採血システムの構築、検査室内の自動搬送システムや新コンピューターシステム稼働など数々の新規検査業務を導入した。

研究面では遺伝子検査グループを構成し、検査部内の医師や検査技師のために研究費を集め、多くの検査関連学会への発表や論文投稿をして貰った。その他コンピュータによる血液細胞画像診断システムの実用化及び遠隔画像診療支援技術の研究、AIによる血液疾患の検査診断の開発なども行った。

教育面では、医学生へのポリクリ（実地教育）の開始、臨床検査医学修士制度の構築および大学院の設置などを行った。

検査部以外で対外活動

対外的な活動も大変であった。臨床検査は医療費の約10%を占めるにも拘わらず、専門医は当時は全国で500名に満たず、大変少なく、特に東京にある大学教授には多くの公的職務や学会役職が集中した。ちなみに私の拘わった対外的な職務は下記である：

日本臨床検査医学会理事長、日本検査血液学会理事長、日本臨床検査専門医会会長、日本臨床化学会監事、日本臨床検査自動化学会編集委員、日本臨床病理同学院監事、日本臨床検査標準協議会（JCCLS）会長、The International Society for Laboratory Hematology Board Member、米国臨床検査標準協議会（NCCLS）Board Member、臨床検査振興協議会理事長、厚生労働省検査技師試験委員会委員長、厚生労働省先進医療専門家会議構成員、厚生労働省標準的な健診・保健指導のあり方に関する検討会構成員、厚生労働省DPC研究班分担研究者、厚生労働省顧問医、中医協専門組織委員会委員、中医協医療技術評価分科会構成員、東京都衛生検査所精度管理専門委員会委員長、文部科学省学術審議会専門委員（科学研究費分科会）、日本医師会疑義解釈委員会委員、日本医師会外部精度管理委員会委員、日本衛生検査所協会精度管理委員会委員長

この間は、国内外の臨床検査関連学会にほとんど全て出席した。特に国際学会にも参加し、多い時には一年に数回の海外出張があった。

このため私は多忙を極め、毎日時間毎の予定表を作って貰い、ただその通りに行動する日が続いた。一生の中で最も忙しい時期を過ごした。

学会や臨床検査団体で、特に印象に残っているのは以下の2つの団体と外来の診療前検査の立ち上げに積極的に拘わった事である。

日本検査血液学会の創設

1990年当時は血液学に関する学会は日本血液学会と日本臨床血液学会が主であり、この中で血液検査の学問である検査血液学は日の目を見ずに経過をしていた。ただ、日本臨床病理学会の中に臨床血液専門部会（以下血液部会）があり、ここで僅かながら検査血液学に興味のある先生方が集まり、検査血液に関する講演会を毎年開催していた。しかし、1992年には、国際検査血液学会が設立され、検査血液学が世界的にも認められてきた。国際的に検査血液学が発展するのを目のあたりにして、やはり日本にもこのような学会が必要であるとの思いが心の中に生じてきた。

その後、この学会の発足のため、血液が専門の有志医の先生方や全国の血液検査技師の方と懸命に話合った。また、関連企業の方にも個別に丁寧に対面でお願いし、賛助会員として資金を提供して貰った。1998年12月24日のクリスマスイブの日に、この学会発足の検討会が開催され、臨床病理学会の血液部会の幹事と日本臨床衛生検査技師会の幹部が会合した。この席で医師と技師とで協力して、実学を中心とした検査血液学会を設立する方針が決定し、最終的に、2000年3月25日に日本検査血液学会が創設され、私が初代理事長に選出された。

本学会は検査室の実際の業務に役立つ組織として発展し、今は臨床検査でも特に隆盛を極めている（会員数：創設時約1,000名が現在は約4,000名）。これを見るにつけ創設当時の苦労が懐かしく感じられると同時にあの時どこかでひるんでいたら今の検査血液学会はなかったかもしれないと思っている。今後も本学会が初心を忘れず、医師、技師、企業の方々が共同で血液検査に有用な研究活動を、地味でも良いから確実に発展させて頂きたいと心から念じている。

臨床検査振興協議会の創設

2000年当時私は診療報酬を決めている厚労省保険局医療課の官僚と接点があり、その中で診療報酬を決める仕組みなどを学んだ。1990年からのデータによれば検体検査の実施料は診療報酬改定毎に低下し、約40%と大きく下落を示していた。そこで分かったのは、検査専門医を含め検査関連の人達の検査の診療報酬への無関心というか、効率的な要望が不足している事であった。これを解決するためには、検査業界が産学共同で国にアプローチする必要があると感じていた。

私はたまたま臨薬協の3人の方にゴルフ場でこの話を持ち出し、臨薬協も含めて検査業界はこれを何とか打破するべく、具体的に策を練らないといけないと力説し、3人からは賛同の意見を貰った。そして、「明日の臨床検査を考える有志の会」を作り、これが診療報酬改善への基盤となった。

2004年に日本臨床検査医学会の会長を拝命した関係で、ある日、厚労省の保険局医療課の課長補佐の方から「厚労省への診療報酬に関する要望は、今の検査業界がやっている書類

だけの申請では全くインパクトに欠ける。外科学会のようにface to faceでの話合いをしないと何が問題か十分把握できない。また、臨床検査はいろいろな組織があり、個別にバラバラの要望を出してくるので、学会だけではなく業界全体で統一した要望をして欲しい」と大変貴重な意見を貰った。

そこでこの年には、さらにこの会に日衛協、臨床検査専門医会などに加入をお願いし、2005年には、業界全体で厚労省へ診療報酬改定を要望する臨床検査振興協議会が創設された。私は言い出しっぺと言う事で、この協議会の初代理事長に選出された。

臨床検査振興協議会では、厚労省と鋭意対面での折衝をし、検体検査実施料の適正化を行った。そして2006年に、1990年に比し約60%も下降していた検体検査実施料の保険点数は、臨床検査振興協議会の設立以来、現在まで下げ止まっている。ここ10数年不況の中で、薬価を初め多くの項目の保険点数が下げられている中で、検体検査実施料は現状維持が続いているのは大変良かったと思っている。下降線があのまま続いていたら、検査業界はどうなっていたかと思う。先進国に比しまだまだ検査の点数は低いので、今後さらに努力する必要があると言う意見はあるが、この下げ止まりは全臨床検査業界に大変大きな福音をもたらしている。

外来迅速検体検査の保険収載

元々私は血液内科医だったので、以前から外来で採血し、当日の血液検査結果で患者診療ができないのかと考えていた。2000年頃、慶応病院の検査部で患者の診察前検査を施行する事を決めた。検査部の人と話し合い「診療前検査」と称して、約80の検査項目を1時間以内に外来に報告するシステムを作った。その後本検査は大人気で増え続け4年間で慶応病院の総外来検査数の約半分が診療前検査になった。しかし、問題は診療前検査を施行しても、当時の保険制度では経済的に適正な評価を受けていない事だった。

2004年に日本臨床検査医学会の会長に選出されたので、学会としてやるべき事の一つに診療前検査の国での評価を得る事を考えた。またその頃、私は厚労省の保険医療専門審査員、先進医療専門家会議構成員、医療技術評価分科会委員などを拝命し、保険局医療課の官僚と接点が多かったので、保険について交渉し易い立場にあった。そこで、日本臨床検査医学会の保険点数委員会の委員長に帝京大学の宮澤教授になって頂き、まさに二人三脚で厚労省に診療前検査の保険収載について要望をした。診療前検査の普及は経済的な利点もあるが、本来疾患の早期診断と早期治療が可能となるので、宮澤先生も私も鋭意交渉をした。

そして2005年4月に、学会から内保連へ最重点項目として本件を会長名で要望した。その要望書のコピーが手元にあるが、技術名は診療前検査加算、対象は外来の主要検査として、1時間以内に報告するとある。特筆すべきは予想される医療費への影響は86億円減との記載がある。これは保険点数委員の故米山彰子先生の素晴らしい発案によった。そしてこの案件は翌2006年度の診療報酬改定で「外来迅速検体検査加算」と言う名称で新たに保険収載された。病院に来たその日に採血などをして、検査結果が分かり診療するシステムは患者さんの日常診療に大きな貢献をしたと思っている。

おわりに

このようにして、私は2005年3月に10年務めた医学部教授を定年退職した。

母校の創始者の福沢諭吉先生は「実なき学問は先ず次にし、専ら勤むべきは人間普通日用に近き実学なり」とその著書の学問のすすめで述べているが、まさにそのような臨床検査専門医としての日々を過ごした。

やってきた事で何が有用かは分からないが、とにかく専門医としては臨床検査の価値を少しでも上げると信じた事を懸命にやった積もりでいる。

臨床検査の価値を上げるべきであると説くのも大切であるが、自分でやってみるのも一つの生き方だと思う。是非トライアンドエラーで結構なので、若い先生方はチャレンジして頂ければと思っている。

事務局だより

【事務局からのお知らせ】

【会員動向】

2024年1月30日現在数632名、専門医539名

【所属・その他変更】（敬称略）

太田　諒　：旧 彦根市立病院臨床検査科　主幹
　　新 彦根市立病院診療局臨床検査科　部長
酒井　康弘：旧 藤田医科大学医学部臨床検査科
　　新 浜松医科大学医学部医学科腫瘍病理学講座
江原　佳史：旧 花と森の東京病院
　　新 JCHO東京山手メディカルセンター

【退会会員】（敬称略）

西野　貴大：理化学研究所

【賛助会社社名変更】

旧 株式会社LSIメディエンス
新 PHC株式会社

【日本臨床検査専門医会臨時社員総会報告】

2023年度一般社団法人日本臨床検査専門医会臨時社員総会は2023年11月16日（木）出島メッセ長崎2階コンベンションホール3にて開催されました。現地参加者64名および委任状273通をもって、定款17条の定める定足数を満たしたため同会は成立しました。

＜審議事項＞

第一号議案：議事録署名人の選任
　　下記2名が推薦されました。
　　柳原　克紀先生　古川　泰司先生
第二号議案：2024年度名誉会員・有功会員の推薦について
　　名誉会員：渡邊 卓　先生　北村 聖 先生
　　有功会員：伊藤 正博 先生　上田 善彦 先生
　　大島 久二 先生　岡田 仁克 先生
　　賀来 満夫 先生　川田 礼治 先生
　　白石 泰三 先生　谷山 清己 先生
　　中西 邦昭 先生　松本 光司 先生
　　宮島 栄治 先生　和田 英夫 先生

第一号～第二号議案は承認されました。

＜報告事項＞

1. 各委員会報告
2. 施行細則一部改訂について
   施行細則第1章第2条について役員の任期変更も社員総会の承認を要する事項に加えること、および第4章14条の委員会委員任期を「連続して3期を超えて」から「連続して4期を超えて」その任に留まることができないと改定する。
3. 2024年度年次大会について

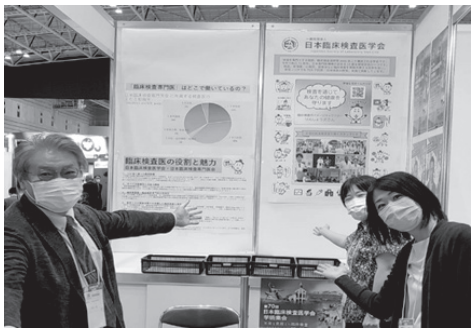
【2023 年度臨時総会講演会報告】

2023 年度一般社団法人日本臨床検査専門医会臨時社員総会に引き続き総会講演会が開催されました。座長は山田副理事長が務め、長崎県上五島病院で地域医療に携われている一宮邦訓医師が「長崎県の離島医療について」というテーマで、離島ならではの医療現場の紹介や今後の展望など興味深いご講演をしてくださいました。現地では会員・医師以外の方の聴講希望もあり、オンデマンド視聴も合わせると 249 名の聴講がありました。

【第 70 回一般社団法人日本臨床検査医学会学術集会関連行事報告】

第 70 回一般社団法人日本臨床検査医学会学術集会における、本会関連行事として、日本臨床検査医学会と本会保険点数・データシステム委員会の共催により、11 月 18 日土曜日にシンポジウムが開催されました。「近未来の臨床検査の情報共有と患者還元･社会貢献､その期待と課題」を大テーマとし、松下委員長、山田副理事長が座長を務め講演、討論会が行われました。今後も各委員会が持ち回りでシンポジウムを企画します。

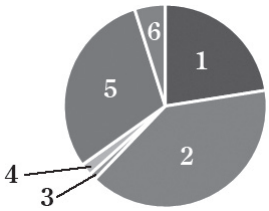
【JACLaSEXPO2023】



今年も本会は JACLaSEXPO 展示に日本臨床検査医学会と共催の形で参加いたしました（2023 年 10 月 4 ～ 6 日 於：パシフィコ横浜）。下記グラフは検査医の所属について、本会所属会員の情報（2023 年 9 月現在 635 名）をもとに作成したものです。その他専門医の役割などをポスター展示いたしました。

2023 年 9 月 15 日現在会員数　計 635 名

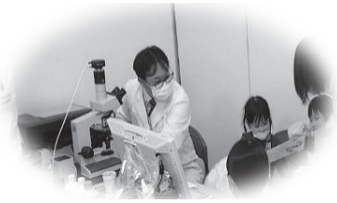
日本臨床検査専門医会所属検査医所属機関



所属先	人数
1. 大学病院	143 名
2. 市中病院	252 名
3. 行政・政府機関・保健所	7 名
4. 製薬企業、検査会社	12 名
5. 教育機関	190 名
6. その他	31 名

【2023 年「全国検査と健康展」報告】

2023 年も 11 月 11 日「臨床検査の日」に合わせて「全国検査と健康展（日本臨床衛生検査技師会、臨床検査振興協議会との共催）」が各都府県で開催されました。11 月 11 日～ 12 月 17 日まで、全国 11 会場、延べ 15 名の検査医がボランティアとして「検査説明・健康相談」を担当くださいました。ご協力いただきました先生方に感謝申し上げます。



開催地によっては、毎年楽しみにされている地元の方もおられるそうです。ご担当いただきました先生方には「参加証明書」を発行いたしました。臨床検査専門医更新 1 単位、専攻医「地域活動」に該当いたします。

今後開催時もご協力いただける先生を募る予定です。地元もしくは近隣県で開催の際はご協力をお願いいたします。なお、昨年から各地技師会のご協力を得て専門医会の「のぼり旗」を会場に掲げました。

【2024 年度　第 3 回年次大会】

大　会　長：尾﨑　敬（紀南病院中央臨床検査部）
期　　日：2024 年 6 月 29 日（土）～ 30 日（日）
会　　場：紀南看護専門学校・4 階 講堂
（体育館：紀南病院敷地内）
テ　ー　マ：「臨床検査・研究・そしてワークライフバランス」
公式サイト：https://nihon-rinshoukensa-senmonikai-nenjitaikai-dai3kai.jp/

上記ホームページから、プログラム、専門医更新単位認定講演（共通講習計 2 単位、領域講習計 6 単位申請予定）、参加費、交通・宿泊案内、エクスカーション企画などをご確認ください。なお、現地参加が困難な方のために、開催終了後オンデマンド配信（2024/7/11 ～ 2024/7/25）を予定しています。参加申し込みフォームは 2 月中に公式ホームページに開設する予定です。今後も情報を更新していきますのでご確認ください。

＼詳しくはこちら／

【2024 年行事予定】
：詳細検討中の内容は後日ホームページ等でご案内いたします。

3 月 23 日（土）　第 7 回理事会
4 ～ 5 月（未定）　第 1 回理事会（開催形式未定）
5 月 20 日（月）～ 6 月 3 日（月）
第 93 回教育セミナー（オンデマンド配信）
6 月 29 日（土）～ 6 月 30 日（日）
日本臨床検査専門医会第 3 回年次大会
29 日（土）　第 2 回理事会､2024 年度定時社員総会、生涯教育講演会
7 月 26 日（金）　第 41 回臨床検査振興セミナー（御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター）
9 月 頃　第 3 回理事会
11 月 11 日（月）　臨床検査の日
11 月 28 日（木）～ 12 月 1 日（日）
第 71 回日本臨床検査医学会学術集会（大阪）
第 4 回理事会、2024 年度臨時社員総会・講演会・共催セミナー

＊ 2024 年度は役員選挙の年となります。日程等については追ってお知らせします。

【2024 年度教育セミナー開催予告】（教育研修委員会より）

2024 年度教育セミナーにつきまして、下記の通り開催を予定しております。

開催形式：講義資料配布 ＋ 講義動画オンデマンド配信
（受講後、MCQ 問題を回答いただいた方には受講証を発行いたします。
＊機構専門医研修プログラム整備基準：
2. 研修方法　②「臨床現場を離れた学習」(1) に該当）

配信日程：2024 年 5 月 20 日（月）～ 6 月 3 日（月）
講義内容：一般臨床検査学／臨床化学・免疫学／臨床血液学／臨床微生物学／輸血学 / 遺伝子検査学／臨床生理学／臨床検査診断特性評価／臨床検査室管理総論・精度管理
募集期間：4 月初旬～ 1 ヵ月程度（募集期間・方法の詳細についてはホームページ上でご案内いたします）
参加費用：8,000 円
注意事項：本会会員のみ受講可能です。非会員の方には申込と同時に入会申請をお願いしております。学生、初期研修生の方は非会員の方も受講可能です。

本セミナーは、臨床検査専門医に必要な知識・技術をこれから習得していこうとする方へのガイドを提供することを主な目的としております。会員の先生方のお近くに臨床検査専門医認定試験受験予定の方、臨床検査医学に興味・関心のある研修医・医学生の方などがいらっしゃいましたら、お声がけをお願いします。

なお、専門医資格既得者他、既に日常業務で臨床検査に携わっている方が、ブラッシュアップの目的で受講されることも歓迎いたします。

【2023 年度会費振込のお願い】

2023 年度年会費未納の会員様宛てに昨年 12 月、会費振込用紙を再度お送りしました。年度末（2024 年 3 月末）が近づいておりますので、お納めいただいていない会員の方はお早めに振込みをお願いいたします。なお、2024 年度年会費につきましては、年度明け 4 月以降に振込用紙の発送を予定しております。

2023 年度年会費：10,000 円（2023 年 4 月 1 日現在 70 歳以上の方は 5,000 円）
銀行名：ゆうちょ銀行
金融機関コード：９９００
店番：０１９　　店名：〇一九 店（ゼロイチキユウ店）
預金種目：当座　　口座番号：００２０５０９
口座名：一般社団法人日本臨床検査専門医会

ご自身の納入状況が不明な先生は、事務局まで E-mail または FAX でお問い合わせください。

【住所変更・所属変更に伴う事務局への通知について】

住所・所属の変更にともなって定期刊行物、JACLaP WIRE、電子メールなどの連絡が届かなくなる会員がいます。勤務先、住所および E-mail address 等の変更がありましたら必ず事務局までお知らせ下さい。変更事項はホームページから『会員情報変更届』をダウンロードして記載後、FAX あるいは E-mail でお送りください。

なお、本会では、JACLaPWIRE の配信を含め、セミナー開催情報等会員様への有用なお知らせを、必要に応じメール配信しております。E-mail address のご登録がお済みではない先生は、同様に事務局までお知らせくださいますようお願いいたします。

＜連絡先＞
日本臨床検査専門医会 事務局（水・土日祝祭日は休業日）
電話：03-3864-0804　FAX：03-5823-4110
旧）メールアドレス：senmon-i@jaclp.org
新）メールアドレス：senmon-i@jaclap.org
＊事務局メールアドレスのドメインが変更になりました。前アドレスでご登録をいただいている先生がいらっしゃいましたらご変更をお願いいたします。

【会員の声：次世代の臨床検査専門医】

血液・輸血専門医から臨床検査専門医を取得して

東邦大学医療センター佐倉病院血液内科輸血部臨床検査部
清水　直美

令和 4 年度から臨床検査専門医の仲間入りをさせていただきました東邦大学医療センター佐倉病院　清水直美と申します。私は平成 4 年に富山大学医学部を卒業し、群馬大学第三内科に入局、その後結婚を契機に千葉へ転居し千葉大学第二内科に入局いたしました。その後は血液、輸血の専門医として勤務し、平成 26 年から東邦大学医療センター佐倉病院へ異動し、血液内科の立ち上げ、輸血業務の拡充を主な仕事として働いております。

臨床検査医学会に参加するようになりましたきっかけは、ライフワークバランスをテーマとしたプログラムに参加し、子育てと仕事の両立について発表し、臨床検査医学会の先生方とお知り合いになったことがきっかけでした。その後も女医として働く中で、自分の趣味の時間や日常生活を楽しむ大切さなどを紹介させていただきました。女医は結婚、妊娠、出産、育児というライフスタイルの変化により働き方を調整せざるをえない時期があり、キャリアの継続のためにも臨床検査という分野は今後更に臨床医に浸透していくのではないかと思います。

千葉大学医学部附属病院　松下一之教授の指導のもと、週に一回がんゲノム医療の症例検討会に参加させていただき、昨今の癌治療における遺伝子パネル検査の重要性なども学ばせていただきました。56 歳という年齢で専門医試験を受けるということは記憶力低下の面からも迷いましたが、新しい事にチャレンジすることは失敗しても得るものは大きい、という私のモットーに基づき、頑張ってみることにしました。

臨床検査専門医の準備にあたり、血液と輸血分野は自分の専門であったためあまり問題ありませんでしたがそれでも、教育セミナーの資料を拝見し初めての気づきもありました。他分野は研修医以下の知識であり隙間時間を見つけて勉強していました。生理学は、勤務している病院の生理機能検査室のスタッフにお願いして、心エコー、腹部エコー、乳房エコーなどの実践を指導していただきました。また心電図、筋電図の読み方などは医学生向けの動画配信プログラムを視聴しました。微生物学はグラム染色など、昔習ったかどうかも忘れているレベルでしたが、当院の細菌検査室に出向き、実際にグラム染色や顕微鏡を供覧しながら診断方法を教えていただきました。また臨床検査技師さん方が学生や研修医に向けて作成されている資料をわけていただき基礎から勉強しました。寄生虫の問題は形態と名前を覚える以外に漢字を正確にかけるよう気を付けました。医学総論、臨床化学、臨床免疫学はアイソザイムに関しましても学生の頃習った事以外に新しい知識の習得につながり、膠原病の自己抗体の判定なども非常に興味深いものでした。精度管理は初めて知ることが多くかなりとまどいましたが、臨床検査技師さん達が通常業務で検体測定をしているだけではなく、毎日機器の管理をしていることが分かり非常に勉強になりました。遺伝子に関しましては、私は高校で生物を選択していなかったので一番苦手とする分野でした。大学受験性向けの動画配信ツールを仕事の合間に観ながら、生物の基礎から学びました。まだまだ臨床検査専門医としての知識としては非常に拙いですが、今後のがんゲノム医療の重要性からも苦手意識を持ちながらも、学んでいきたいと思っています。

以上、記載しましたように、今回臨床検査専門医試験を受験し、院内の臨床検査技師さん達とお近づきになれ、臨床検査の深い知識と経験、複雑な日常業務の下支えに日常臨床が成り立っていることを深く理解しました。このような視点で臨床検

査部門を見ることができるようになったことが、試験を受けて一番良かったことだと思います。臨床検査技師さん達の言葉を臨床側に吸い上げ、また臨床検査専門医の認知を上げ、専門医増加につなぐことが出来る医師になれるよう、日々努力していきたいと思っています。

臨床検査専門医を取得して

東京慈恵会科大学 臨床検査医学講座
川口　憲治

東京慈恵会医科大学臨床検査医学講座の川口憲治と申します。2022年度の認定試験にて専門医を取得いたしました。まだ新型コロナウイルス感染症への細心の対応が求められる中、認定試験を開催していただきました事務局・関係者の皆様に大変感謝いたします。また、教育セミナー（オンデマンド配信）で講師の労を取って下さった専門医会の先生方や事務局の皆様にも大変感謝申し上げます。対面でのセミナーもメリットは多々あると思いますが、何度も見直すことのできるオンデマンド配信の方が私には大変有用でした。セミナー内容はとても素晴らしく、範囲の広い臨床検査医学の知識を体系的に整理することができ、今後認定試験を受けられる先生方には必須であると確信しています。

私は医学部入学前に他学部に所属し物理学で学位（理学）を取得いたしました。その後学士入学にて入学させていただいた千葉大学を2010年に卒業しましたが、そのまま大学院に進学したことや元々一般企業に所属していることもあり、なかなか臨床に携わることができませんでした。2019年にようやく初期臨床研修を修了し、松浦知和教授（当時）に多大なるご理解をいただき、同年よりカリキュラム制の専攻医として東京慈恵会科大学の臨床検査医学講座にて専門研修を開始し現在に至っています。

上記の様に私の基本診療領域は臨床検査であり、専門研修を通して臨床検査専門医の重要性・やりがいを再認識いたしました。しかし残念ながら、〆谷直人先生も指摘されている通り、「臨床検査専門医の医療における認知度は臨床検査技師の認知度より低い」というのが現状です（モダンメディア68巻7号，2022）。また専攻医採用状況も臨床検査は36名（2023年度）と最下位が継続している状態です。

臨床検査分野には既に他分野で専門医を取得し臨床も経験されている先生方が、検査室や臨床検査医学講座への異動に伴い新たに専門医を取得される場合が圧倒的に多いのが現状で、初期臨床研修を終えてすぐに臨床検査で専門研修を開始する専攻医はまだまだ少数です。しかし、医師3年目から臨床検査を専攻する人数を増加させていくことが本分野の更なる発展には必要不可欠だと私は思っています。入ってくる専攻医が少ない理由の一つとしてはやはり「キャリアパスが見えにくい」ことがあるのではないかと考えます。また臨床検査医として他科に質の高いコンサルテーションを行うには初期臨床研修での臨床経験のみでは不足だと私は感じます。キャリアパスとして理解しやすいのがサブスペシャリティですが、現時点（2023年5月）では専門医機構が認めているサブスペシャリティの中で臨床検査専門医の資格のみで取得可能なのは感染症専門医と消化器内視鏡専門医の2領域のみと大変少ない状況です（消化器内視鏡専門医は新制度では消化器病専門医がないと取得できない方針となっているため、今後取得できなくなる可能性が高いです）。

サブスペシャリティに関しては「単独診療科でのサブスペシャリティは専攻医が200人以上必要」という日本専門医機構の目安基準があり、現状では臨床検査単独のサブスペシャリティはすぐには不可能な状況だと思います。打開策としては既に存在するサブスペシャリティ領域と連動研修できる制度の新たな構築や、ダブルボードを制度化し、学会として推奨していくことがあると考えます。参考としてダブルボード制度の「救急専門医と総合診療専門医のダブルボード」等は、研修歴や症例の一部を共有して研修期間を短縮する制度を両学会で既に構築し推進しています。他学会や機構との交渉・折衝は大変な困難さが予想されますが、新たな制度を構築していくことは専攻医の増加に大いに寄与すると考えます。私もまだまだ未熟ですが、臨床検査専門医としてこの分野の発展に尽力させていただきたいと思います。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

【「能登半島地震」被害へのお見舞いとお願い】

この度の「令和6年能登半島地震」によりお亡くなりになられました方々へのご冥福と、被災されました方々にお見舞い申し上げます。また、被災地におきまして、救援や復興支援などの活動に尽力されておられます方々に深く敬意を表しますとともに、皆様の安全と1日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

日本臨床検査専門医会は、臨床検査振興協議会（https://www.jpclt.org/）の構成団体として、臨床検査振興協議会の大規模災害対策委員会を通じて臨床検査関連の情報収集や物品支援等の活動に協力しております。会員の皆様におかれましてはこの度の地震に関する情報や現況、支援についてのご意見等がございましたら、細かいことでも構いませんので、事務局までご連絡いただけると幸甚です。

一般社団法人日本臨床検査専門医会
理事長　〆谷　直人

一般社団法人 日本臨床検査専門医会
理　事　長：〆谷直人、副理事長：山田俊幸
常 任 理 事：村上正巳（庶務）、増田亜希子（会計）、田部陽子（資格審査・規定改定委員会委員長）、幸村　近（渉外委員会委員長）、
福地邦彦（情報・出版委員会委員長）、松下一之（保険点数・データシステム委員会委員長）、尾﨑　敬（広報・ネットワーク運営委員会委員長）、
鯉渕晴美（教育研修委員会委員長）
理　　事：藤井　聡、植木重治、浅井さとみ、山田鉄也、山﨑正晴、北中　明、橋口照人
監　　事：東條尚子、菊池春人
情報・出版委員会：
委員長：福地邦彦
委　員：出居真由美、井上暢子、後藤和人、吉田　博、金子　誠

一般社団法人 日本臨床検査専門医会事務局
〒101-0027 東京都千代田区神田平河町1番地　第3東ビル908号
TEL：03-3864-0804　FAX：03-5823-4110　E-mail：senmon-i@jaclap.org